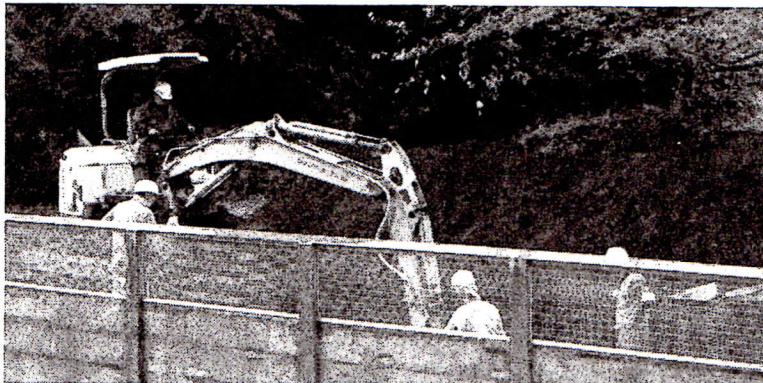


東大とご近所 変わる関係



塀の改修工事が進む小石川植物園

ホームカミングデーに本郷商店街が参加したり、西東京フィールドで市民が博物館運営に協力したりと、東大と地域住民の関わりに少しずつ変化が生まれている。国立大学法人化後は特に、大学の地域貢献といった言葉もよく聞かれるようになった。東大の近隣の住民、自治体との関係の変容に、さまざまな事例を紹介する連載を通して迫る。(小幡進午、菱山哲平)

連載・東大と地域の関わり 第1回

多摩地区北東部の西東京市。旧東大農場を改組した農学生命科学研究科附属生態調和農学機構西東京フィールドは、月曜を除く平日はほぼ自由に入れ、年間約1万5000人が訪れる。このほか食品安全などに関する公開講座やヒマワリ油搾りなどのイベントも行われている。

市民から協力の申し出

市民向けのイベントが増える。旧東大農場を改組した農学生命科学研究科附属生態調和農学機構西東京フィールドは、月曜を除く平日はほぼ自由に入れ、年間約1万5000人が訪れる。このほか食品安全などに関する公開講座やヒマワリ油搾りなどのイベントも行われている。

その集大成として、市民団体「東大農場・演習林の存続を願う会(宮崎啓子代表)は、今年27日、西東京市内で市民フォーラムを開催する。詳細は生態調和農学機構ウェブサイト(<http://www.isas.a.u-tokyo.ac.jp/detail/index.php?id=60>)で閲覧でき

理学系研究科附属植物園(通称・小石川植物園)では、老朽化した塀の改修工事をめぐって、住民から反対の声が出ている。工事の内容は、文京区が改修工事の費用を負担する

代わりに、東大から植物園の塀の周囲の敷地1200平方メートルを譲り受け、道路を平均で2メートル拡張するもの。既に植物園の敷地内の土を掘り返す作業が進められている。

不安視されている塀の耐震強度を高めることに貢献し、道路の拡張は遊歩道の整備や、歩行者の通行を容易にすることとしている。

東日本大震災被災者支援
東大の学生が
家庭の学生が
入試を受験す



©東京大学新聞社2011
毎週火曜日 発行
4頁 定価 170円
(本体価格162円)

藤井省三 税込二九四〇円
中国語圏文学史
魯迅、張愛玲から、平安門事件後の鄭義、高行健まで—二〇世紀以後、北京・上海、香港・台湾の文化交流を軸に、人びとの情念と論理の形成を描き出す。
東京大学出版会

紙面より
司法試験 どう変わった
最初の星は太陽の40倍
地震学の目的とは?
かしこく使うタブレット